

JISAデジタル政策セミナー 「新しいIT調達プラットフォーム デジタルマーケットプレイス(DMP)の 現状と今後の展開について」

開催報告

令和7年2月12日（水）、ビジネス委員会デジタル社会推進部会（部会長：加藤 健（株）オーイーシー）は、標記セミナーをZoomウェビナーにて開催した。参加者は130名。

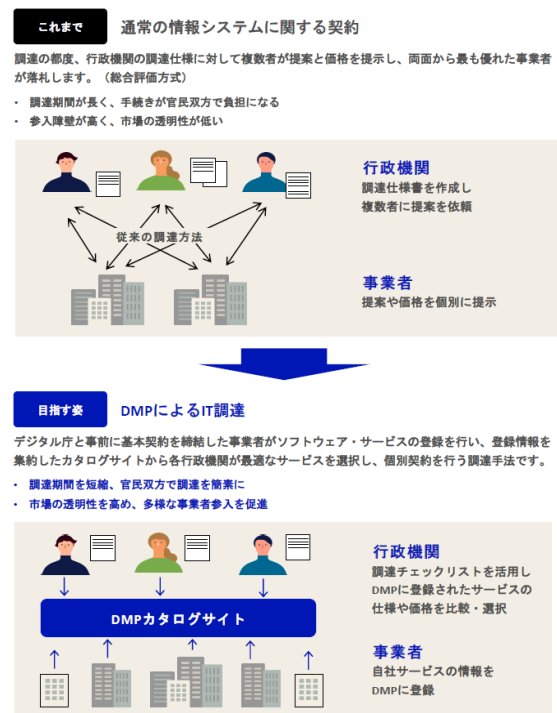
本セミナーでは「新しい IT 調達プラットフォーム デジタルマーケットプレイス (DMP)の現状と今後の展開について」と題して、デジタル庁 国民サービスグループ 戦略組織グループ 企画官 吉田泰己 氏から講演があった。

講演では行政機関のクラウドソフトウェア（SaaS）調達迅速化と、多様なベンダー参入による調達先の多様化を目的とした調達プラットフォームである「デジタルマーケットプレイス（DMP）」について、背景趣旨・制度概要や登録の方法等について説明があった。

これまで、国・自治体等の行政機関は情報システムに関する契約を行う際は、調達の都度、行政期間の調達仕様に対して複数者が提案と価格を提示し、両面から最も優れた事業者が落札する方法を採用している。（総合評価落札方式）

一方、DMP による IT 調達においては、デジタル庁と事前に基本契約を締結した事業者がソフトウェア・サービスの登録を行い、登録情報を集約したカタログサイトから各行政機関が最適なサービスを選択し、個別契約を行う調達手法となる。

1 月からは DMP サイト（<https://www.dmp-official.digital.go.jp/>）において、ソフトウェア・サービスが検索できる機能がリリースされ、行政関係者以外でも検索できる形となった。



以上

（小泉）